

2023 ~ 2024 年度国際ロータリーのテーマ



世界に希望を生み出そう

## 世界に希望を生み出そう

- 会長 中島 祐爾
- 幹事 緒方 公一

No.1826 令和 05 年 07 月 19 日 第 03 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

 ※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email [serc@serc2720.org](mailto:serc@serc2720.org)


### ■点鐘

### ■国歌斉唱「君が代」

### ■熊本東南ロータリーソング「未来」 (ソングリーダー 古田哲朗)

### ■会長の時間 (会長 中島祐爾)

ロータリークラブ家族会の起源

1905年に始まったロータリークラブは、元々は事業利益の増大(相互扶助活動)や会員相互の親睦というのが二大目的でした。そのちロータリークラブ創設者のひとりポール・ハリスやその後入会したドナルド・カーターによって対外的な奉仕活動が始められると、元々の目的に期待して入った会員が不満を言い出しました。

創立3年目にして早くも事業利益目的の「親睦互惠派」とその後追加になった「社会奉仕・クラブ拡大派」の2つの派閥が発生することになりました。

毎回例会時に激論が交わされ、当時会長であったポール・ハリスも任期途中で会長職を辞任するところまで追い込まれていました。

この時、2つの派閥の接合役を見事に果たしたのが初代親睦委員長を務めた歯科医のウィリアム・ネフでした。ネフは温和な人柄で誰からも好かれる人だったようで、この人事は最適なものになりました。欧米の習慣として改まった会合に夫人を同伴することが定着していましたので、ネフは年度末に家族会を盛大に開催することを計画し、混乱したクラブ内の融和に努めようとしてきました。これが大成功でロータリークラブの家族会の起源になったということです。

### ■幹事報告 (幹事 緒方公一)

#### ■クラブより

奉仕プロジェクトのお知らせ



### 慈愛園テーブルマナー講座

8月7日(月) 11:30~13:30 熊本ホテルキャッスル  
 ※慈愛園の子どもさん約10名(高校生・中学生)と付き添いの先生3~4名、15名以内の予定。  
 ※慈愛園サマーキャンプの代わりにイベントとなります。

2)  
 前年度理事会報告。

### ■出席報告 (出席・プログラム担当 松田和成)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率 (%)
07月05日	45 (免3) 42	33	3	36	85.71
07月19日	45 (免2) 43	34			79.07

☆出席免除  
 07月05日  
 住江正治 島村徹男 志賀重人  
 07月19日  
 島村徹男 志賀重人

☆欠席者  
 07月05日(6名)  
 川崎直樹 前田日出夫 徳永貴子 山坂哲生 矢野敬之  
 吉永陽三

### ■スマイル報告 (親睦・スマイル担当委員 松岡泰光)

◎全員スマイル 34,000円

### ■点鐘

編集者 松尾 浩



～新年度家族会～

司会 親睦・スマイル担当

○開宴の挨拶

(親睦・スマイル担当委員 松岡泰光)



○直前会長幹事へ記念バッジと花束の贈呈

(会長 中島祐爾)



山田公也 直前会長、杉本整哉 直前幹事

○お礼の辞

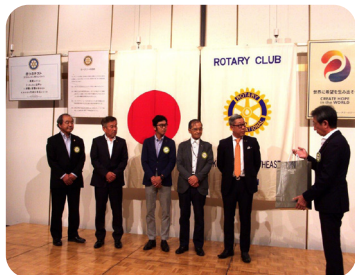


○優秀スマイル賞表彰 記念品贈呈

(会長 中島祐爾)

2022-2023 年度 優秀スマイル賞

- 山田公也 会員
- 沼田敏雄 会員
- 杉本整哉 会員
- 内田信行 会員
- 宮川義行 会員



○乾杯

(副会長 村瀬直久)



○熊本東南ローターアクト紹介



○アトラクション



○閉会の辞

(会長エレクト 前田日出夫)



## メンタルヘルスを優先することはなぜ大切なのか

投稿日：7月6日 2023 投稿者：Rotary Japan  
寄稿者：ゴードン R. マッキナリー  
(2023-24 年度国際ロータリー会長)

私は 2023-24 年度国際ロータリー会長として、世界的なメンタルヘルスの問題に特に焦点を当てています。メンタルヘルスや心の健康は、誰にとっても口にしやすいトピックかもしれませんが、国や地域によってはそのような対話がとても難しい場合があることも理解しています。



しかし、自分のメンタルヘルスや心の健康を大事にできるよう互いに心を開き、助け合うことの恩恵は計り知れません。多くの人に苦難や孤立を強いることとなった新型コロナウイルスの世界的大流行がようやく終わりつつある今、私たちの多く、そして私たちが奉仕する人びとの多くが、引き続き心の健康の問題を抱え、誰にも相談できずに悩んでいます。ロータリー会員である私たちは、そのような人たちに手を差し伸べることができます。親睦と奉仕を礎とする団体として、私たちは互いを信頼し、思いやりながら、支えあうことができます。私たちは皆、メンタルヘルスとウェルネスについて地域社会とオープンなディスカッションを行い、地域で予防ケアや支援の堅固な土台を築くことができます。

ロータリーの活動で世界を旅する中で、私はこのような対話が会員のつながりと安全な環境を育んできたのを目にしてきました。こうしたつながりと安全な環境は、強い人間関係を築きながら、私たちが奉仕する地域の人びとの心の健康を守ることにもつながります。

今年度、以下の重要な目標に向けてロータリーが前進できるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

1. 心の健康の問題に伴うスティグマ（偏見）の解消
2. メンタルヘルスのニーズに関する認識の向上
3. メンタルヘルスの支援や治療へのアクセス改善

これらの目標をどう実現するかを私から示すのではなく、奉仕プロジェクトで、クラブで、会員の仲間や市民との交流の中で、どのように変化をもたらせるかを考えていただきたいと思います。メンタルヘルスの優先に関するパンフレットには、メンタルヘルスの問題に取り組むためのさまざまなアイデアが紹介されています。また今年度、そしてその先にも、メンタルヘルスと心の健康を優先し、互いに学びあいながらロータリーで草の根の運動を生み出すために、メンタルヘルス・イニシアチブのロータリー行動グループの力を大いに借りたいと考えています。ロータリーショーケースには、今月から「メンタルヘルスへの取り組み」のセクションが設けられており、メンタルヘルスに関する啓発や支援拡大に向けたクラブの活動を掲載したり、閲覧したりできるようになっています。

メンタルヘルスや心の問題にまつわる課題は、すべての人に影響を及ぼします。研究によると、思いやりある行動をとることは、前向きな気持ちを保つための最も効果的な方法であることがわかっています。ロータリーは、力を合わせて世界的なインパクトを与えることのできる独特な立場にあります。互いを、そして自身をもっと大切にするために、この取り組みにご参加いただけることを願っています。

メンタルヘルスへの取り組みを呼びかけるマッキナリー会長からの動画メッセージ



— メンタルヘルスへの取り組みを呼びかけるマッキナリー会長からの動画メッセージ

[https://cdn2.webdamdb.com/md\\_kdcBYzaBsY581llw.mp4?1686333519](https://cdn2.webdamdb.com/md_kdcBYzaBsY581llw.mp4?1686333519)

## メンタルヘルスの問題に立ち向かう

記事 Anne Stein

保健分野の取り組みで大きなインパクトをもたらしてきたロータリーは、世界的にポリオを根絶間近に追いついてきただけでなく、クラブの活動を通じて疾病予防や母子の健康をサポートしています。

新型コロナウイルスが世界に蔓延する今、これまで見過ごされがちだったもう一つの保健分野に注目が集まっています。その分野とは、「メンタルヘルス」。多くの国や地域で、うつ病、不安神経症、自殺などは恥とされ、口にされることもありません。しかし、こうした問題への理解や支援が不足していることを認識した各地のロータリアンが、行動を起こしています。

**世界保健機関によると、全世界で2億6,400万人以上がうつ病に苦しんでいます。**

「1年前、メンタルヘルスに取り組むロータリー行動グループのメンバーは50名でした」。こう話すのは、同グループのリーダーで、プラッツバーグ・ロータリークラブ（米国ニューヨーク州）会員のボニー・ブラックさんです。「メンバーの数は、コロナ禍で3倍になりました。メンタルヘルスと健康への意識が高まっているからでしょう」

世界保健機関（WHO）によると、全世界で2億6,400万人以上がうつ病に苦しんでいます。メンタルヘルスの疾患の多くが比較的 low コストで治療できるにもかかわらず、多くの人が治療を受けていません。

イダバン・イディシン・ロータリークラブ（ナイジェリア）会員であるフェリックス・キングスリー・オビアロさんは、同クラブがウェレスリー・ロータリークラブ（米国）とともに実施しているプロジェクト、「Wellness in a Box（箱の中の幸せ）」を地元で取りまとめています。「社会的な烙印を押されているメンタルヘルスの分野は、これまでずっと無視されてきました」とオビアロさん。「ロータリークラブの取り組みにより、この烙印が徐々に弱まり、抵抗を抱く人が少なくなってきました」

**社会的な烙印を押されるメンタルヘルスの分野は、これまでずっと多くの人から無視されてきました。ロータリークラブの取り組みによって、この烙印が徐々に弱まり、抵抗を抱く人が少なくなってきました**

フェリックス・キングスリー・オビアロさん  
イダバン・イディシン・ロータリークラブ（ナイジェリア）会員

難民と移民への無料のメンタルヘルスサービス

2014年、ベルリンで医師として働いていたピア・シュカラピス・ケルフェルトさん（クラインマハノー・ロータリークラブ会員）は、紛争や残虐行為から逃れてドイツに流れ込んできた難民たちの姿を目にしました。何とか助けたいと考えて設立した非営利団体「Medizin Hilft（医療による支援）」は、ロータリー財団グローバル補助金と世界中のクラブからサポートを受けて、難民・移民に無料で医療を提供しています。スタッフのほぼ全員がボランティアです。

しかし、身体的疾患の治療のニーズに加え、患者の約半数が、うつ病、PTSD（心的外傷後ストレス障害）、依存症といった精神的な問題や疾患を抱えていることに、同団体の医師たちは気づきました。そこで2020年、難民・移民に無料のメンタルヘルスサービスを提供するために、モアヘッドシティルックアウト・ロータリークラブ（米国）からの協力を得て、もう1件のグローバル補助金を確保しました。

クラインマハノー・ロータリークラブの会員である心理学者、ウラ・ミヒェルス-フェアモイレンさんが中心となり、心理学者、精神科医、翻訳者、ソーシャルワーカーらが支援に乗り出しました。その支援を受けた一人、シリア難民のファトマさんは、看護師としてシリアで爆弾攻撃の負傷者たちの治療にあたりましたが、状況が危険となり祖国を逃れました。しかし、その後の過酷な旅によってトラウマが引き起こされたと、ミヒェルス-フェアモイレンさんは説明します。

ボートで地中海を渡っているとき、ファトマさんはほかの難民たちが溺れ死ぬのを目のあたりにしました。救援ボートにより救出され、一時は難民キャンプのテントで寝泊まりしましたが、そこに医者はおらず、食料も十分にありませんでした。この旅の間、何度か性的暴行の被害にもあいました。

**メンタルヘルスの問題を無視すれば、社会が大きなつげを払うことになります。病気の人がサポートを受けることは、人権なのです**

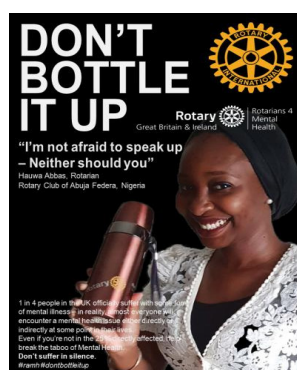
ウラ・ミヒェルス-フェアモイレンさん  
心理学者・クラインマハノー・ロータリークラブ（ドイツ）会員

「ファトマさんはドイツに残留することを決め、ドイツ語を習うために学校に通うことになりましたが、今もカウンセリングを受けています。悪夢や不眠症に悩み、何にも集中できないという問題に苦しんでいます」とミヒェルス-フェアモイレンさん。「メンタルヘルスの問題を無視すれば、社会が大きなつげを払うことになります。病気の人がサポートを受けることは、人権なのです」

### SNS キャンペーンでメンタルヘルスの烙印を打ち破る

第1175地区（英国）では数年前、地区大会で行ったメンタルヘルスに関する講演がきっかけとなり、この問題に対する関心が高まりました。「とてもパワフルな講演でした。私たちは『メンタルヘルスのためにロータリアンとして何ができるか?』と考えました。行動を起こしたい一方で、私たちロータリアンはメンタルヘルスのエキスパートではありません。でも、何らかの方法で支援できると思いました」と、プラインプトン・ロータリークラブ会長のダレン・ハンズさんは話します。

そこで地区のロータリアンたちは「Don't Bottle It Up（封じ込めるのはやめよう）」と呼ばれる SNS キャンペーンを開始し、うつ病、不安神経症やそのほかの問題に苦しむ人々に対し、助けを求めることを呼びかけました。「メンタルヘルスの問題に苦しむ人の大半は、悩みを誰かに打ち明けるまで1年以上かかります」とハンズさんは説明します。「このキャンペーンを通じて、社会的烙印を打ち破ることができればと願っています」



ダレン・ハンズさんが開始した「Don't Bottle It Up（封じ込めるのはやめよう）」キャンペーンには、ロータリー会員が簡単に参加できます。「ピンをもった自分の写真を撮って私に送っていただくだけです」とダレンさん。作成した広告をソーシャルメディアに投稿することができます。

2017年に開始されたこのキャンペーンでは、広告に地元のスポーツ選手や有名人を起用しました。また、英国では4人に一人が心の問題を抱えており、一人で苦しみを抱えこまないように呼びかけるメッセージを広告に含めました。

その2年後には、英国だけでなくアイルランドも加わって全国的な取り組みが開始され、キャンペーンのフェイスブックページとウェブサイトも立ち上げました。現在、28人の有名人と60人のロータリアンが、SNSでメッセージを広げています。

「キャンペーンの成果を知る直接的な手段はありません」とハンズさん。「しかし、たった一人でも、自殺を考えている人や、うつ病や不安神経症に苦しんでいる人が広告を見て、誰かに悩みを打ち明けてくれたなら、それだけでキャンペーンは成功したと思います」※続きは、下記 URL を参照してください。

<https://www.rotary.org/ja/rotarians-address-mental-health-issues-head-on>